

皆様、おはようございます。

梅雨の末期とは思いますが、雨が多く降っています。昨日は出雲の方では冠水の被害があったようです。

皆様も早めの避難等を心掛けて頂き、水の被害にはくれぐれもお気を付けください。また、熱中症にもお気をつけください。

さて私たちはヘブル6章をご一緒に味わってまいりましょう。前章の終わりにはこのように記してありました。

5:12 あなたがたは、久しい以前からすでに教師となっているはずなのに、もう一度神の言の初歩を、人から手ほどきしてもらわねばならない始末である。あなたがたは堅い食物ではなく、乳を必要としている。

5:13 すべて乳を飲んでいる者は、幼な子なのだから、義の言葉を味わうことができない。

5:14 しかし、堅い食物は、善悪を見わける感覚を実際に働かせて訓練された成人のとりべきものである。

ヘブル書は、イエス様を受け入れることの出来ずにいる、ユダヤ人たちに宛てて書かれ、天使とイエス様を比べ、モーセと比べ、メルキゼデクに比べ、どれよりも勝る大祭司であるイエス様が描かれました。それにしても久しい昔から教師となっているのに、どうしてイエス様の素晴らしさが分からないのか、受け入れられないのかということが繰り返し語られてまいりました。

6章では、イエス様を信じたことのあるクリスチャンたちについて、その語られた教えに従い、忍耐して約束されたものを勝ち取るようにとの励ましがあります。

1 そういうわけだから、わたしたちは、キリストの教の初歩をあとにして、完成を目ざして進もうではないか。今さら、死んだ行いの悔改めと神への信仰、

2 洗いごとについての教と按手、死人の復活と永遠のさばき、などの基本の教をくりかえし学ぶことをやめようではないか。

3 神の許しを得て、そうすることにしよう。

死んだ行いの悔い改め、と神への信仰、洗いごとについての教と按手、死人の復活と永遠のさばきなどは、ユダヤ教のもとでも教えられていたことでした。

そのユダヤ教の初歩の教えはまた、キリスト教の教えの土台となる者でもありましたが、その土台の上に建て上げられるイエス・キリストによる救いに比べれば、それはキリスト教にとってすれば初歩の事柄です。

死んだ行いの悔い改め、と神への信仰、洗いごとについての教と按手、死人の復活と永遠の

さばき、こういうことは、教理としては大変重要なものですが、それらはまだまだ初歩の教えなのです。

申命記 30:10 これはあなたが、あなたの神、主の声に聞きしたが、この律法の書にしるされた戒めと定めとを守り、心をつくし、精神をつくしてあなたの神、主に帰するからである。

30:11 わたしが、きょう、あなたに命じるこの戒めは、むずかしいものではなく、また遠いものでもない。

30:12 これは天にあるのではないから、『だれがわれわれのために天に上り、それをわれわれのところへ持ってきて、われわれに聞かせ、行わせるであろうか』と言うに及ばない。

30:13 またこれは海のかなたにあるのではないから、『だれがわれわれのために海を渡って行き、それをわれわれのところへ携えてきて、われわれに聞かせ、行わせるであろうか』と言うに及ばない。

30:14 この言葉はあなたに、はなはだ近くあってあなたの口にあり、またあなたの心にあるから、あなたはこれを行うことができる。

30:15 見よ、わたしは、きょう、命とさいわい、および死と災をあなたの前に置いた。

30:16 すなわちわたしは、きょう、あなたにあなたの神、主を愛し、その道に歩み、その戒めと定めと、おきてとを守ることを命じる。それに従うならば、あなたは生きながらえ、その数は多くなるであろう。またあなたの神、主はあなたが行って取る地であなたを祝福されるであろう。

マタイ 15:1 ときに、パリサイ人と律法学者たちが、エルサレムからイエスのもとにきて言った、

15:2 「あなたの弟子たちは、なぜ昔の人々の言伝えを破るのですか。彼らは食事の時に手を洗っていません」。

15:3 イエスは答えて言われた、「なぜ、あなたがたも自分たちの言伝えによって、神のいましめを破っているのか。」

15:4 神は言われた、『父と母とを敬え』、また『父または母をののしる者は、必ず死に定められる』と。

15:5 それなのに、あなたがたは『だれでも父または母にむかって、あなたにさしあげるはずのこのものは供え物です、と言えば、

15:6 父または母を敬わなくてもよろしい』と言っている。こうしてあなたがたは自分たちの言伝えによって、神の言を無にしている。

15:7 偽善者たちよ、イザヤがあなたがたについて、こういう適切な預言をしている、

15:8 『この民は、口さきではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。

15:9 人間のいましめを教として教え、無意味にわたしを拝んでいる』。

15:10 それからイエスは群衆を呼び寄せて言われた、「聞いて悟るがよい。

15:11 口にはいるものは人を汚すことはない。かえって、口から出るものが人を汚すのである」。

15:12 そのとき、弟子たちが近寄ってきてイエスに言った、「パリサイ人たちが御言を聞いてつまずいたことを、ご存じですか」。

15:13 イエスは答えて言われた、「わたしの天の父がお植えにならなかったものは、みな抜き取られるであろう。

15:14 彼らをそのままにしておけ。彼らは盲人を手引きする盲人である。もし盲人が盲人を手引きするなら、ふたりとも穴に落ち込むであろう」。

15:15 ペテロが答えて言った、「その譬を説明してください」。

15:16 イエスは言われた、「あなたがたも、まだわからないのか。

15:17 口にはいつてくるものは、みな腹の中にはいり、そして、外に出て行くことを知らないのか。

15:18 しかし、口から出て行くものは、心の中から出てくるのであって、それが人を汚すのである。

15:19 というのは、悪い思い、すなわち、殺人、姦淫、不品行、盗み、偽証、誹りは、心の中から出てくるのであって、

15:20 これらのものが人を汚すのである。しかし、洗わない手で食事することは、人を汚すのではない」。

使者の復活と永遠の命もまた、イエス様の十字架による贖罪と、イエス様の復活による神様の救いを除いては、理解することが出来ません。

1 そういうわけだから、わたしたちは、キリストの教の初歩をあとにして、完成を旨として進もうではないか。

さて、ここまではそのように、イエス様を知らないユダヤ人たちに対して語られていた向きが強いように思いましたが、ここにはこのように書いてあります。

6:4 いったん、光を受けて天よりの賜物を味わい、聖霊にあずかる者となり、

6:5 また、神の良きみ言葉と、きたるべき世の力とを味わった者たちが、

6:6 そののち墮落した場合には、またもや神の御子を、自ら十字架につけて、さらしものにするわけであるから、ふたたび悔改めにたち帰ることは不可能である。

いったん、光を受けて天よりの賜物を味わい、聖霊にあずかり、良き御言葉に与かるとは、イエス様を信じたクリスチャンたちことを言うのではないのでしょうか。

しかし、種蒔きの例えのように、

ルカ 8:13 岩の上に落ちたのは、御言を聞いた時には喜んで受け入れるが、根が無いので、しばらくは信じていても、試練の時が来ると、信仰を捨てる人たちのことである。

8:14 いばらの中に落ちたのは、聞いてから日を過ごすうちに、生活の心づかいや富や快樂にふさがれて、実の熟するまでにならない人たちのことである。

このようにして離れて行ってしまう人たちの事が書かれています。

6:7 たとえば、土地が、その上にたびたび降る雨を吸い込んで、耕す人々に役立つ作物を育てるなら、神の祝福にあずかる。

土地が水を豊かに得る。それは耕す人々に役立つ作物を育てるためです。そのように血は造られ、そのようにして水が注がれました。その神様の御心のままに進むとき、神の祝福にあずかることが出来ます。私たちもまた、神様の御心にかなうものとして造られました。神様からの恵みを豊かに受けて、そして私たちが身を実らせることが出来るように、私たちは造られました。

ヨハネ 15:16 あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである。

15:17 これらのことを命じるのは、あなたがたが互に愛し合うためである。

マタイ 17:15 「主よ、わたしの子をあわれんでください。てんかんで苦しんでおります。何度も何度も火の中や水の中に倒れるのです。

17:16 それで、その子をお弟子たちのところに連れてきましたが、なおしていただけませんでした」。

17:17 イエスは答えて言われた、「ああ、なんという不信仰な、曲った時代であろう。いつまで、わたしはあなたがたと一緒におられようか。いつまであなたがたに我慢ができようか。その子をここに、わたしのところに連れてきなさい」。

17:18 イエスがおしかりになると、悪霊はその子から出て行った。そして子はその時いやされた。

17:19 それから、弟子たちがひそかにイエスのもとにきて言った、「わたしたちは、どうして霊を追い出せなかったのですか」。

17:20 するとイエスは言われた、「あなたがたの信仰が足りないからである。よく言い聞か

せておくが、もし、からし種一粒ほどの信仰があるなら、この山にむかって『ここからあそこに移れ』と言えば、移るであろう。このように、あなたがたにできない事は、何もないであろう。

17:21 [しかし、このたぐいは、祈と断食とによらなければ、追い出すことはできない]。

6:8 しかし、いばらやあざみをはえさせるなら、それは無用になり、やがてのろわれ、ついには焼かれてしまう。

6:9 しかし、愛する者たちよ。こうは言うものの、わたしたちは、救にかかわる更に良いことがあるのを、あなたがたについて確信している。

無用のものとなってしまうのは、何ともったいないことでしょうか。

しかし、わたしたちはそのように無用の者とはならないように、神様は忍耐をもって教え導き、訓練して下さるのです。

6:10 神は不義なかたではないから、あなたがたの働きや、あなたがたがかつて聖徒に仕え、今なお仕えて、御名のために示してくれた愛を、お忘れになることはない。

6:11 わたしたちは、あなたがたがひとり残らず、最後まで望みを持ちつづけるためにも、同じ熱意を示し、

6:12 怠ることがなく、信仰と忍耐とをもって約束のものを受け継ぐ人々に見習う者となるように、と願ってやまない。

神様は不義な方ではない。神様は邪悪な方ではなく、善なる方であり、不正直な方ではなくて正直な方であり、不義なるお方ではなくて義なるお方、私たちとの関係を大事にされる、忠実なお方です。私たちの働きや、聖徒同士仕えたこと、今なお仕えて神様の御名のために示した愛を決してお忘れにはなりません。

私たちは、弱さの中でも、ひとり残らず最後まで望みを持ち続けることができます。そのために、熱意をもって、誠実さを勤勉さをもって、怠ることなく、怠惰にならず、信仰と忍耐とをもって約束のものを受け継ぐ人々に見習う者となるようにと進み続けようではありませんか。その見習うべき人としてアブラハムが挙げられます。

6:13 さて、神がアブラハムに対して約束されたとき、さして誓うのに、ご自分よりも上のものがないので、ご自分をさして誓って、

6:14 「わたしは、必ずあなたを祝福し、必ずあなたの子孫をふやす」と言われた。

6:15 このようにして、アブラハムは忍耐強く待ったので、約束のものを得たのである。

アブラハムについては、このように書いてあります。

創世記 22:1 これらの事の後、神はアブラハムを試みて彼に言われた、「アブラハムよ」。彼は言った、「ここにおります」。

22:2 神は言われた、「あなたの子、あなたの愛するひとり子イサクを連れてモリヤの地に行き、わたしが示す山で彼を燔祭としてささげなさい」。

22:3 アブラハムは朝はやく起きて、ろばにくらを置き、ふたりの若者と、その子イサクとを連れ、また燔祭のたきぎを割り、立って神が示された所に出かけた。

22:4 三日目に、アブラハムは目をあげて、はるかにその場所を見た。

22:5 そこでアブラハムは若者たちに言った、「あなたがたは、ろばと一緒にここにいなさい。わたしとわらべは向こうへ行って礼拝し、そののち、あなたがたの所に帰ってきます」。

22:6 アブラハムは燔祭のたきぎを取って、その子イサクに負わせ、手に火と刃物とを執って、ふたり一緒に行った。

22:7 やがてイサクは父アブラハムに言った、「父よ」。彼は答えた、「子よ、わたしはここにいます」。イサクは言った、「火とたきぎとはありますが、燔祭の小羊はどこにありますか」。

22:8 アブラハムは言った、「子よ、神みずから燔祭の小羊を備えてくださるであろう」。こうしてふたりは一緒に行った。

22:9 彼らが神の示された場所にきたとき、アブラハムはそこに祭壇を築き、たきぎを並べ、その子イサクを縛って祭壇のたきぎの上に載せた。

22:10 そしてアブラハムが手を差し伸べ、刃物を執ってその子を殺そうとした時、

22:11 主の使が天から彼を呼んで言った、「アブラハムよ、アブラハムよ」。彼は答えた、「はい、ここにおります」。

22:12 み使が言った、「わらべを手にかけてはならない。また何も彼にしてはならない。あなたの子、あなたのひとり子をさえ、わたしのために惜しまないので、あなたが神を恐れる者であることをわたしは今知った」。

22:13 この時アブラハムが目をあげて見ると、うしろに、角をやぶに掛けている一頭の雄羊がいた。アブラハムは行ってその雄羊を捕え、それをその子のかわりに燔祭としてささげた。

22:14 それでアブラハムはその所の名をアドナイ・エレと呼んだ。これにより、人々は今日もなお「主の山に備えあり」と言う。

22:15 主の使は再び天からアブラハムを呼んで、

22:16 言った、「主は言われた、『わたしは自分をさして誓う。あなたがこの事をし、あなたの子、あなたのひとり子をも惜しまなかったので、

22:17 わたしは大いにあなたを祝福し、大いにあなたの子孫をふやして、天の星のように、浜べの砂のようにする。あなたの子孫は敵の門を打ち取り、

22:18 また地のもろもろの国民はあなたの子孫によって祝福を得るであろう。あなたがわ

たしの言葉に従ったからである』。

アブラハムは、その長年の祈りによってやっとイサクを得たのに、自分の妻も老年で、その奇跡の子を守りたいとは考えずに、無理難題とも思えるような、主のイサクを捧げよとの言葉を行うことを願いました。

6:16 いったい、人間は自分より上のものをさして誓うのであり、そして、その誓いはすべての反対論を封じる保証となるのである。

6:17 そこで、神は、約束のものを受け継ぐ人々に、ご計画の不変であることを、いっそうはっきり示そうと思われ、誓いによって保証されたのである。

6:18 それは、偽ることのあり得ない神に立てられた二つの不変の事がらによって、前におかれている望みを捕えようとして世をのがれてきたわたしたちが、力強い励ましを受けるためである。

神様は、この上もないご自身に対して「わたしは、必ずあなたを祝福し、必ずあなたの子孫をふやす」と誓われました。それはアブラハムにとっては持っても彼の願う願いであり、希望であることでした。神様はそのお約束を不変のものとして私たちに与えて下さいます。ご自身に誓って、「偽ることのあり得ない」お方の誓いであるからには、嘘をつくことが不可能で、真理でないことを話すことが不可能で、間違ふことなく、正しく生きる方による近いというもの、どれだけ私たちにとって大切なことであるかが分かります。

それは、「前におかれている望みを捕えようとして世をのがれてきたわたしたちが、力強い励ましを受けるため」です。私たちは前におかれている望みを確かに捕えるために、不確かな世から逃れてきたものです。

1 ヨハネ 2:7 愛する者たちよ。わたしがあなたがたに書きおくるのは、新しい戒めではなく、あなたがたが初めから受けていた古い戒めである。その古い戒めとは、あなたがたがすでに聞いた御言である。

2:8 しかも、新しい戒めを、あなたがたに書きおくるのである。そして、それは、彼にとってもあなたがたにとっても、真理なのである。なぜなら、やみは過ぎ去り、まことの光がすでに輝いているからである。

2:9 「光の中にいる」と言いながら、その兄弟を憎む者は、今なお、やみの中にいるのである。

2:10 兄弟を愛する者は、光におるのであって、つまりくことはない。

2:11 兄弟を憎む者は、やみの中におり、やみの中を歩くのであって、自分ではどこへ行くのかわからない。やみが彼の目を見えなくしたからである。

2:12 子たちよ。あなたがたにこれを書きおくるのは、御名のゆえに、あなたがたの多くの罪がゆるされたからである。

2:13 父たちよ。あなたがたに書きおくるのは、あなたがたが、初めからいますかたを知ったからである。若者たちよ。あなたがたに書きおくるのは、あなたがたが、悪しき者にうち勝ったからである。

2:14 子供たちよ。あなたがたに書きおくれたのは、あなたがたが父を知ったからである。父たちよ。あなたがたに書きおくれたのは、あなたがたが、初めからいますかたを知ったからである。若者たちよ。あなたがたに書きおくれたのは、あなたがたが強い者であり、神の言があなたがたに宿り、そして、あなたがたが悪しき者にうち勝ったからである。

2:15 世と世にあるものごとを、愛してはいけない。もし、世を愛する者があれば、父の愛は彼のうちにない。

2:16 すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、持ち物の誇は、父から出たものではなく、世から出たものである。

2:17 世と世の欲とは過ぎ去る。しかし、神の御旨を行う者は、永遠にながらえる。

ビリピ 2:13 あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるどころだからである。

2:14 すべてのことを、つぶやかず疑わないでしなさい。

2:15 それは、あなたがたが責められるところのない純真な者となり、曲った邪悪な時代のただ中であって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持って、彼らの間で星のようにこの世に輝いている。

ヨハネ 14:27 わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。

6:19 この望みは、わたしたちにとって、いわば、たましいを安全にし不動にする錨であり、かつ「幕の内」にはいり行かせるものである。

6:20 その幕の内に、イエスは、永遠にメルキゼデクに等しい大祭司として、わたしたちのためにさきがけとなって、はいられたのである。

この望み、主が誓ってくださったのなら私たちにとって間違いはない、神様がキリストに

よってその約束を確かなものにして下さったという確信は、たましいを安全にし不動にする錨であり、かつ「幕の内」にはいり行かせるものです。

その幕の内に、イエスは、永遠にメルキゼデクに等しい大祭司として、わたしたちのためにさきがけとなって、はいられたのです。ここに私たちの行くべき将来の道があります。私たちは、不医師、信じ、忘れず、守っていて下さる方と共に、忍耐をもって、熱意をもって、神様が誓って祝福して下さったこの約束と希望の道を握りしめ、進ませていただきたいと願います。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。いつまでも教への初歩をたどるような私たちですが、あなたの恵みとあわれみによって私たちは成熟を目指すことができますから、ありがとうございます。私たちは最後まで希望を持ち続けることが出来、信仰と忍耐とによって、約束されたものを受け継ぐことが出来、目指す希望を持ち続けようとして世を逃れて来たわたしたちが、力強く励まされ、わたしたちが持っているこの希望は、魂にとって頼りになる、安定した錨によって守られていますから、本当にありがとうございます。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン